塗装研究室　第２回

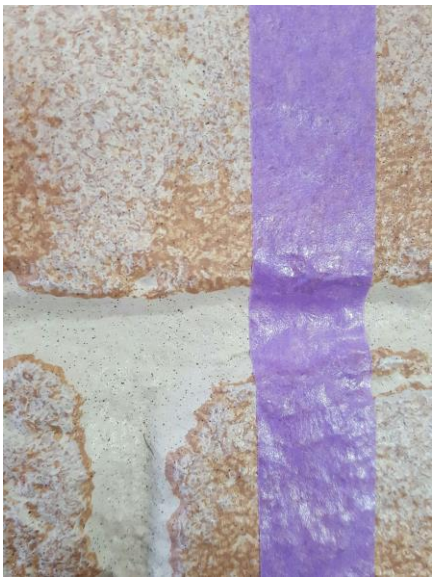
目的：新築戸建住宅のシーリング施工時のシーリングテープの糊残り対策
近年増加している光触媒及び親水性対応サイディングにおいての糊残り
どのような状況で発生するのかを確認。

使用テープ：カモ井加工紙　ＳＢ２２９Ｐ（パープル）佐々木塗料一番人気！
カモ井加工紙　ＳＢ２４６（ブルー）　セルフクリーニング用

サイディングサンプル：ニチハモエンエクセラード（マイクロガード仕様）

テストの前にちょっと豆知識！
マスキングテープは種類によって特徴があります。

ＳＢ２４６はアクリル糊、糊残りは少ないですが粘着力は弱く、上記のような凹凸の大きいサイディングだと隙間が・・・



ＳＢ２２９Ｐはゴム糊、粘着力が強いので凹凸面にもしっかりと貼りつきますが、条件によっては糊残りの原因にも・・・

テスト１

マスキングテープの貼り時間によって糊残りの差はあるのか？

室温２０℃

① ＳＢ２４６　　２４時間後撤去

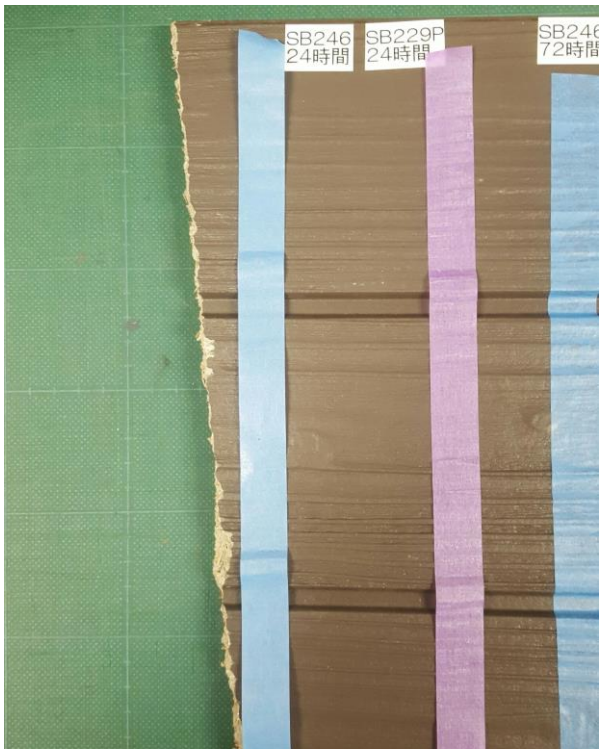
② ＳＢ２２９Ｐ　２４時間後撤去

③ ＳＢ２４６　　７２時間後撤去

④ ＳＢ２２９Ｐ　７２時間後撤去

⑤ ＳＢ２４６　　一週間後撤去

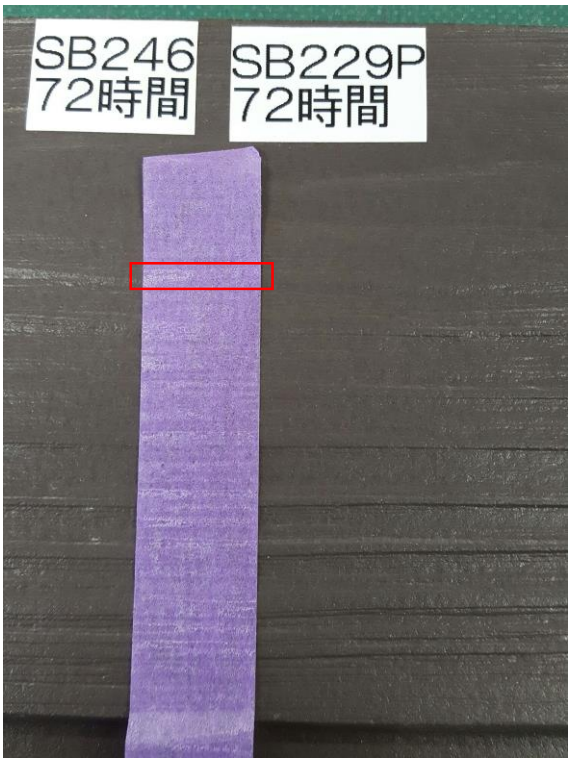
⑥ ＳＢ２２９Ｐ　一週間後撤去



２４時間後撤去

ＳＢ２４６、ＳＢ２２９Ｐ共に問題なし

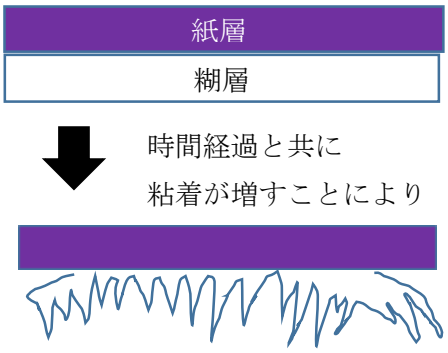
７２時間後撤去
ＳＢ２４６問題なし



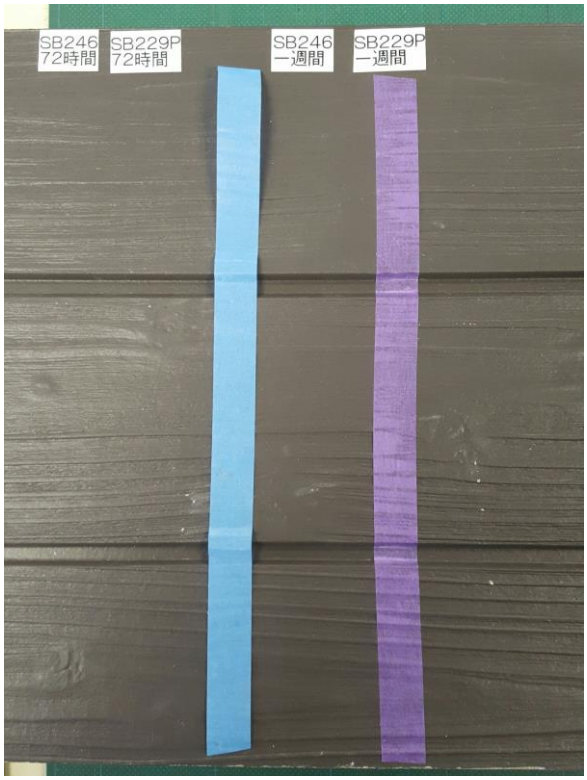
７２時間後撤去
ＳＢ２２９Ｐ
サイディングへの糊残りはなかったが、明らかに２４時間後撤去に比べ粘着が増していると思われる。
写真、マスキングテープ糊面にいくつも横にのびる白い層（赤枠）はマスキングの紙の層から糊の層が伸び、剥がれそうになっている部分。

横に伸びた白い層が７２時間後撤去の方が確実に多くなっている。
時間の経過と共に粘着は増していると思われる。

マスキングテープイメージ

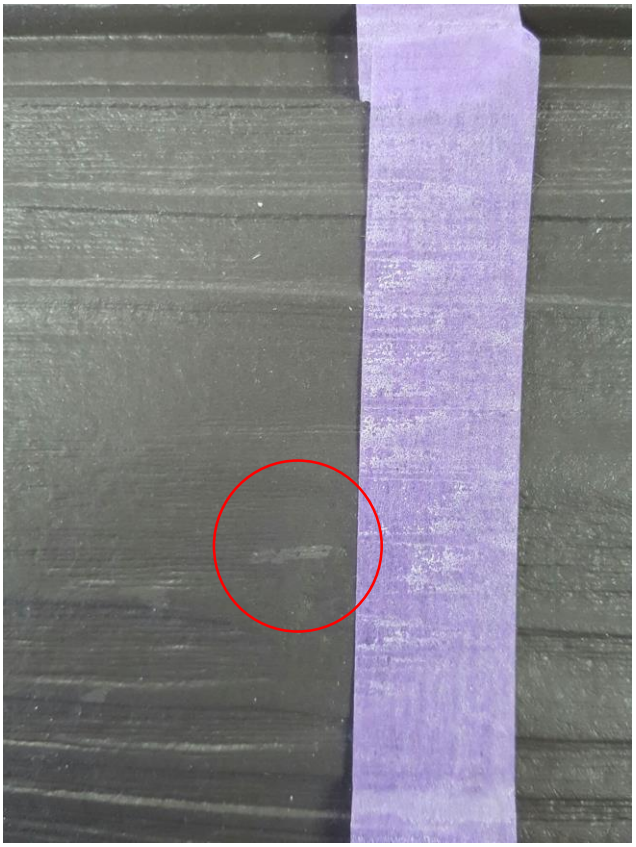


糊層が剥がすときに引っ張られて伸びた症状が白く見える部分



一週間後撤去
ＳＢ２４６変化なし

アクリル糊の特性としては貼り時間によっての糊残りはほぼないものと考えられる。



一週間後撤去
ＳＢ２２９Ｐ
白い層も今まで以上にはっきりと
サイディング面にも糊残りの現象
が見られた。

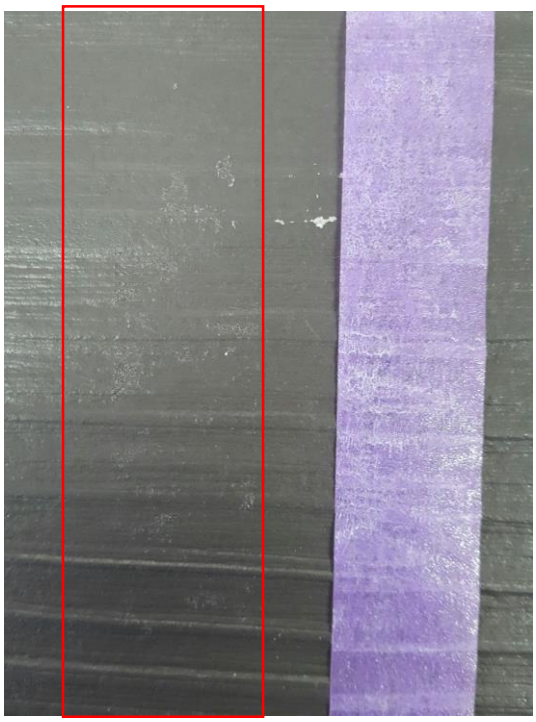
テスト２
夏場を想定とした場合の糊残りは？

これまでは室温２０℃設定でのテストであった。糊残りの多い夏の状況ではいったいどうなるのか？夏場の日当たり面をイメージしてテストを実施した。

弊社にて塗板を強制乾燥させる乾燥機。
サイディング板面が４０℃程度になるよ
うに乾燥機内を８０℃として６時間放置
後糊残りの確認を行う。

サイディング面４０℃
ＳＢ２４６
まったく変化なし

糊が残りそうな雰囲気さえない



サイディング面　４０℃
ＳＢ２２９Ｐ

テープに沿って全体的に糊残りが生じた。

このテストは乾燥機にて６時間経過後すぐにマスキングテープを撤去した。
別テストとして同じように乾燥器に６時間、すぐに撤去せず翌日撤去した場合の糊残りは確認できなかった。

まとめ

サイディングボードの種類も今回のように凹凸がないものもあれば、凹凸が激しく、しかも砂状という場合は粗面用のマスキングテープを使用しなくてはならない状況もあります。
今回のテストでは貼り時間によっての糊残りの差は多少ありましたが、気温が高くなる夏場でのマスキングテープの選定が糊残りの失敗を防ぐとひとつの手段と考えらえます。
一種類のマスキングテープへのこだわりも大事ですが、サイディングの種類、施工時の気温によっての使い分けをすることが今後のセルフクリーニングサイディングの糊残り対策となるのではないでしょうか。
今回のテストから言えることは、ＳＢ２２９のような粘着力の強いゴム糊系のテープを使用するときは夏場の直射日光があたる面はシールの施工及びマスキングテープの撤去は行わない方が良い！日陰から施工しましょう！そう日陰から・・・・